

第3章 施設整備の方向性

1. 復旧の考え方

(1) 基本理念

◇平成 29 年度および 30 年度に開催した熊本競輪事業検討会の意見を踏まえ、これまで、必要となる施設規模やバンクの周長等に関する検討を行い、施設整備の方向性を整理した。

◇これらのことから、熊本競輪場の再開にあたっては、競輪事業の収益が復興期の財源として寄与するため経費削減と安定的な経営が可能となる施設の整備が必要である。また、運動公園内にふさわしい公園施設として、防災面の強化を図ると同時に広く市民に開放され地域に貢献できる施設とすることが必要である。さらに競輪のみならずアマチュアスポーツの振興を図る総合的なスポーツ施設とすることが求められる。

◇このような考え方から、施設の整備にあたり次の3つの基本理念を定める。

1. 機能が集約された競輪場
2. 地域防災、地域コミュニティの拠点となる競輪場
3. アマチュアスポーツ振興の拠点となる競輪場

(2) 整備方針

◇施設の整備方針として次の4つを定め、基本理念の実現に向けた熊本競輪場の復旧を行う。

整備方針1 最大限、既存施設を活用する。

競輪場の復旧にあたっては既存施設を活用することで整備費削減に努め、競輪事業の収益を熊本地震からの復旧・復興財源に引き続き活用する。

【主な取組み】

- 既存施設の大規模改修により整備を行うことで経費を抑制する。
- 機能を集約することで運営の効率性と機能性向上を図る。

整備方針2 不用資産を売却、解体しオープンスペースとして活用する。

現状の過大な施設規模を見込まれる来場者に合った形で整備することで経費削減を図り、復旧財源の確保とオープンスペースの活用を図る。

【主な取組み】

- 周辺駐車場はすべて売却し、復旧財源として活用する。
- 不用施設解体により生まれたバンク隣接空地に新たに駐車場 500 台分を整備する。

整備方針3 コンパクトでありつつも、G I レースへの対応も可能とする。

売上が最も見込まれるG I（特別競輪）の早期誘致を目指し、開催可能な施設整備を行う。

【主な取組み】

- G I（特別競輪）入場者 5,000 人を収容可能と想定した施設の整備を行う。
- G I（特別競輪）を想定した選手管理棟の充実を行う。
- 400mバンクによる整備を行う。

整備方針4 地域貢献、アマチュアスポーツ振興の実現を図る。

熊本地震の教訓を生かし防災面の強化を図るとともに、一般開放を前提とした整備を行うことで多くの市民が集い、遊び、楽しめる施設とする。また、高校生をはじめとした多くの自転車競技者などが活用できる施設を整備する。

【主な取組み】

- サービスセンターを地域交流、災害避難所として市民に開放する。
- オープンスペースを活用した市民活動の場の提供を行う。
- 防災拠点としての整備を行う。
- 高校生をはじめとした自転車競技者などが利用できる自転車競技練習棟（トレーニング施設）を整備する。
- 災害時における救援物資等の搬入、集積、配送等を想定した整備を行う。

2. 復旧・解体する施設の整理

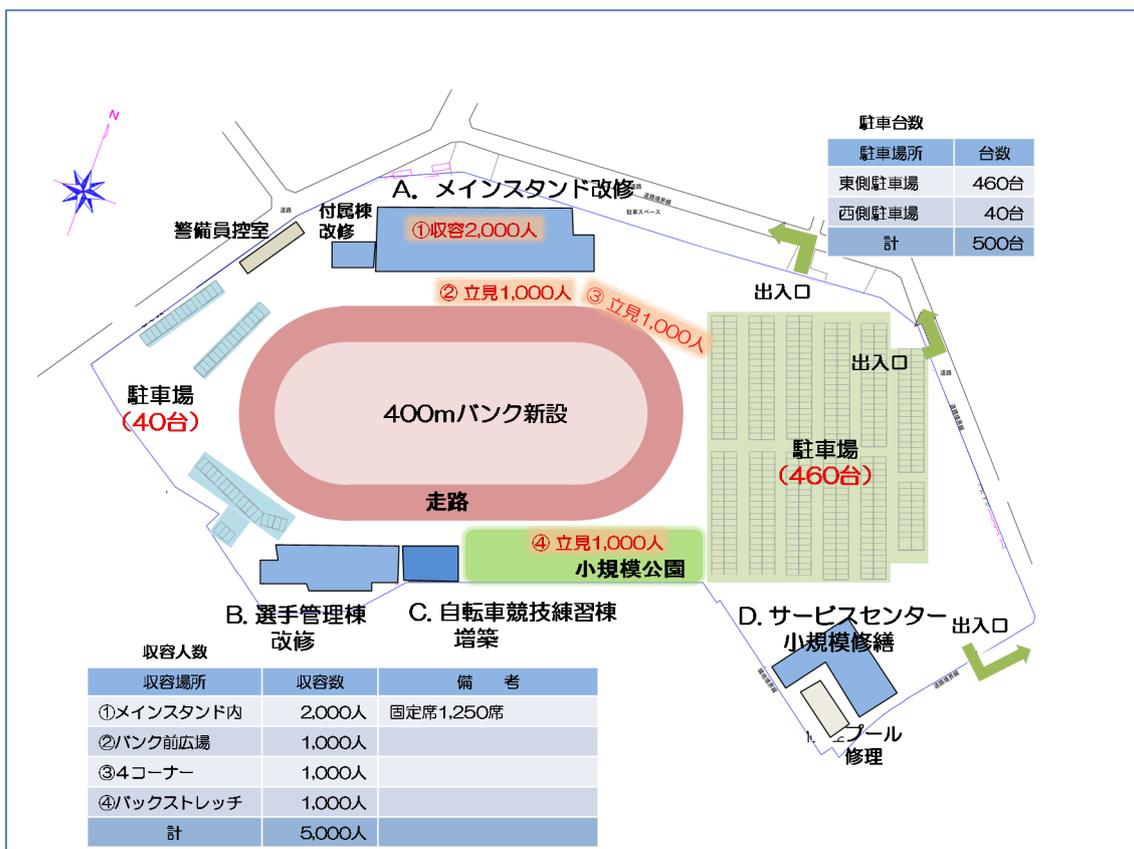
(1) 整備する施設

◇整備する施設は以下の通りであり、以下のような配置となる。

①バンク	周長 400mの整備
②メインスタンド（および付属棟）	耐震補強・大規模改修による整備
③選手管理棟	耐震補強・大規模改修による整備
④自転車競技練習棟	増築
⑤サービスセンター	地域交流施設として再開（プールの再開）
⑥オープンスペース	小規模公園の整備
⑦オープンスペース	駐車場の整備

◇次頁以降に整備概要を整理する。

図 3-1 整備する施設の配置



①バンク・・・周長 400mの整備

- ◇既存のメインスタンド、選手管理棟に合わせて400mバンクを配置する。
- ◇メインスタンドとの間に空地ができることとなり、その空地を生かして、来場者の通行、観戦環境の改善を図る。また、車両が通行しやすく、災害時の一時避難や物資集配の動線としての機能を確保する。
- ◇バンク内でのイベント等に活用できるように、カメラタワーについては可動式のものを整備する。
- ◇現有バンクの特徴を堅持し長軸の長いバンクとし、スピード感のあるレース展開を図るためカント（角度）が大きいバンクの整備を行う。
- ◇車いす競技者の練習が可能となるよう整備する。

バンク周長の決定期由

1. 既存施設の大規模改修による対応も可能となり経費が抑えられる。
2. バンク縮小により空地が生み出され、駐車場や緑地として活用することで、災害対応、地域貢献が可能となる。
3. アマチュア競技の練習や大会はより短走路であることが望ましく、地元選手会が要望する周長でもある。
4. 最も収益性が見込まれ、売上が最も高いGIレースの誘致数も多い。

②メインスタンド（および付属棟）・・・耐震補強・大規模改修による整備

- ◇観客席（一般、特別、ロイヤル）、車券発売機能、場外車券発売を含む車検発売機能、投票所等の来場者が利用するスペースを集約する。
- ◇前売発売所をメインスタンドに設置し、交通渋滞等の解消を図る。
- ◇管理機能、開催機能をスタンド内に集約する。
 - ☆1階は、前売発売所を含む屋内発売・サービス機能を整備する。
半屋外通路を屋内化することで、解体施設にある管理諸室（施行者事務所・従業員控室・集計センター）を移転配置する。
 - ☆2階は、従来の屋内スペース、屋外席を生かしつつ整備する。
 - ☆3階の一部を屋内化して、特別観覧席、ロイヤル席を確保する。

図 3-2 屋内化のイメージ



- ◇座席数 1,250 席、施設内立見 750 人を合わせてメインスタンド内に 2,000 人が収容できる施設とする。
- ◇場外発売時には、グレードや曜日を加味した来場見込みに応じて、オープンする階を調整する。

表 3-1 再開後のメインスタンド内の収容人数

	屋 内	屋 外	施設内立見	合 計
1 階	250 席（外向前売含む）	—	300 人	550 人
2 階	200 席	400 席	450 人	1,050 人
3 階	400 席（特別観覧席、ロイヤル席）	—	—	400 人
合計	850 席	400 席	750 人	2,000 人

※収容人数の算定は、各階フロアのうち来場者のスペースである面積を想定し、立見部分も余裕を見て 2 人/m²として行った。（一般的には立見は 5 人/m²）

③選手管理棟・・・耐震補強・大規模改修による整備

- ◇従来通り選手控室をはじめとした機能を収める。
- ◇今後増加が予想されるガールズ競輪に対応するため、女性用控室、シャワー室等を拡張する。
- ◇現状、手狭である検車場を拡張する。
- ◇選手控室、ハードケース倉庫、自転車整備機能等を充実させ、自転車競技の実施環境およびアマチュア選手も利用できる環境の向上を図る。

④自転車競技練習棟・・・増築

- ◇アマチュアスポーツ振興に寄与するため、広いローラー練習場、ジム室やシャワー室の整備を行い、アマチュア競技、自転車愛好者にも広く開放する。
- ◇自転車競技の情報の発信を充実させるための機能・施設を整備する。

⑤サービスセンター・・・地域交流施設として再開（プールの再開）

- ◇市民交流施設として再び活用できるように整備する。
- ◇プールについても活用できるように再整備する。
- ◇災害時は避難所として機能するよう、防災倉庫を整備する。

図3-3 地域交流活用イメージ

<フリーマーケット>



<地域交流施設>



(資料) 小田原競輪場 (左)、ポートルース若松 (右)

⑥オープンスペース・・・小規模公園の整備

- ◇解体後にできるオープンスペースについては、駐車場、小規模公園を整備する。
- ◇小規模公園はバンクのバックストレッチ側（サービスセンターと自転車競技練習棟の間）に整備し、屋外の休憩場所、イベント時の利便性を確保する。
- ◇災害時に利用できる災害用マンホールトイレ、防災井戸等を整備する。

図3-4 オープンスペース活用イメージ

<自転車の展示・試乗>



<子ども用自転車の試乗>



(資料) 小田原競輪場

⑦オープンスペース・・・駐車場の整備

- ◇駐車場は500台分を整備し来場者の利便性向上を図る。
- ◇災害時には一時的な避難スペースとしての活用、長期避難への対応として車中泊、物資運搬等のスペースを想定した整備を行う。
- ◇通常時には、駐車場を陸上競技場など他の施設への来場者の利用も可とするなど柔軟な運用方法を検討する。
- ◇競輪場が市の中心部近くに位置していることから、都市部の公営競技場のように、駐車場の有料化を検討する。同時に、来場者へのサービス水準を維持するため、車券購入や有料席利用等により駐車料金の割引等についても検討する必要がある。
- ◇既存の周辺駐車場は、競輪場利用者の状況を勘案しながら計画的に売却を行う。

(3) 解体する施設

◇解体する施設は以下の通りである。

①バックスタンド

◇観客席の大型ガラスの落下、内装材の崩落など被害が大きいこと、特別観覧席の機能はメインスタンド内に整備することから、解体する。

◇現状、バックスタンド1階の半屋外スペースは、水前寺競技場の雨天練習場および運動器具置場となっているため、解体にあたっては、代替機能の確保を検討する必要がある。

②サイドスタンド

◇スタンド席の大屋根の柱脚部が破損し、今後の地震により傾く危険性がある。大屋根は台風被害で破損している。内部は階段室の壁が崩落しており、被害が大きい。また、500mバンクのカントを形成しており、400mバンクの整備時には観客席とならないことから、解体する。

◇解体にあたっては、500mバンクの解体と併せて取りかかることとする。

③第2支払棟

◇鉄骨躯体には大きな損傷はないが内外装が破損していること、集計センター機能はメインスタンド内に移設して維持できることから解体する。

◇第2支払棟には車券発売・レース放映のための集計センターが残っており、解体工事の手法・順序を調整し、施設整備期間中も競輪事業の運用を確保する。

3. 施設整備のイメージ

メインスタンド（耐震補強・大規模改修）

- ◇観戦・サービス機能、施設管理機能を集約
- ◇3階大屋根下の一部を屋内化
（特別観覧席、ロイヤル席、来賓席を整備）

空間の活用（駐車場・小規模公園・緑地整備）

- ◇駐車場を整備、災害時は避難場所として活用
- ◇災害用マンホールトイレ、防災井戸の整備
- ◇バンクを含め一般開放、イベント会場等としての利用



サービスセンター（既存改修）

- ◇地域開放施設として活用
- ◇プール復旧、一般開放
- ◇災害時の避難場所、防災倉庫として活用

選手管理棟・自転車競技練習棟（耐震補強・大規模改修・増築）

- ◇1階の検車場スペース拡充
- ◇3階にガールズ選手控室の整備
- ◇増築部分にローラー練習室、ジム、シャワー室、記者室、スタジオ、会議室等を整備

